長野市民新聞　（第三種郵便物認可）

やるぞ！一期生

公立一貫校・屋代高付属中の初年度

<10>

高校生に交じり研究発表

成長著しく新学期へ

発表を終えた瞬間、篠ノ井市民会館ホールに拍手が起こった。3月9日に開かれた屋代高校1年生の「一人一研究」発表会。高校生に交じって同校付属中学校からただ一人参加した青木祐人君（13）＝若穂綿内＝は、発表に対する会場の反応に「自分の意見を分かりやすく伝えることができた」と充実した表情を見せた。

一人一研究は、科学を通じて取り組む。青の素養を育てるなどの木君は、付属中1年生目的で文科省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」事業の一環として屋代高1年生が年間が夏休みの課題で挑戦した「県統計グラフコンクール」の中学生の部で同校最高の佳作に入ったことから、付属中を代表して高校生14人と発表会に臨んだ。

台表の舞発年じを1と同究中1研属（9日）校生自付君高で独する青木君

青木君の研究タイトルは「外食からわかる祖父母の偉大さ」。同級生80人に家族構成や外食頻度を尋ねるアンケート調査を行って統計を円グラフなどにまとめ、「祖父母のいる家庭の方が外食頻度が高い」ことを導き出した。予想と異なる結果が出たことから、「いつもと違った視点から物事を見る大切さを学んだ」と報告した。

今回の発表では、高校生に合わせて、同コンクール用の用紙からパソコンの発表用ソフトを駆使した資料に作り変えて臨んだ。屋代高1年6組の竹内良輝君は「統計や図を使っていて感心した。負けていられない」と、3歳年下の中学生に刺激を受けた様子だ。同高校SSH委員長の清水久樹教諭も「高校生と遜色ない発表だった。学年を言わなければ中学生だと分からないのではないか」と称賛した。

終業式後、1年間の学習を終えて下校する屋代高校付属中1期生（25日）

県立初の中高一貫校として昨年4月の開校以来、探究力や表現力を養う「科学リテラシー」など特色ある授業を展開してきた付属中。児玉隆副校長は「高校生と同じ校舎で過ごすことで学力と社会性を身に付け、想定以上にたくましくなった」と1期生の成長を喜ぶ。新学期に向けては「身に付けた基礎学力の上に個性を伸ばしてほしい」と、それぞれの人間形成にも期待を寄せた。

＝おわり

（このシリーズは山崎了輔記者が担当しました）